

白馬大雪溪

195.5.27 L.作野, 宇塚地3号

東京を前夜午後8時30分頃発し、本日午前1時40分頃猿倉に到着した。空は満天の星空で明日の好天を予想できた。しかし、よく冷え込んだのでシュラフカバーだけの私は寒くてまともに眠れなかった。

午前6時起床して準備をしていたら、タクシーで小林さんが現れた。彼女は今日は山頂小屋に泊まって明日は白馬鎌沢にいくとのことで6時30分頃出発していった。我々は7時5分に猿倉を出発した。途中長走沢までは道の端々に雪が着いていた。長走沢からはほぼ道一面に雪が現れたが所々雪が切れるので白馬尻小屋のある付近まではツボ足で登った。そこからシールを着けた。大雪渓に入ると角の尖った小石がごろごろ転がっていて帰りの滑降時スキーの裏がさぞ傷むことだろうと思いながら黙々と登った。大雪渓の途中杓子岳側から比較的大きな落石があったが、我々の歩いている少し上で止まった。1900m辺りでアイゼンに履き替えスキーを背負った。途端に肩にかかる負荷が増えザックの背負紐が肩に食い込む。

天気は良いが空には薄く高層雲が懸かっていて日差しは強くない。そのうえ気温が低いので大汗はかかずに比較的楽に登れた。小雪渓に掛かると、斜度が急激に増す。雪渓の途中藪っ平辺りに露岩があり小休止に好都合と一緒に休みました。15分ほど休んで出発したが、15分ほど歩いたときだろうか、進路に向かって右側の岩室辺りの雪渓の端から突如人の大きさくらいもある大きな石が現われ雪渓を猛烈なスピードで跳ねて落ちていった。そして先程まで我々が休んでいた露岩の近くで突然幾片かの石塊に碎けた。誰かがその石に当たったらしく、「誰か無線を持っていませんか。」との声が聞こえた。しかし、あいにく我々は無線を携帯していなかったので気掛かりではあったが先に進むことにした。

白馬山荘直下の大岩の下に12:00に着いた。そこで休んでいると寒くてどうしようもなくオーバースポンを履く羽目になった。と、突然シャラシャラという音に驚かされた。霰でも降ってきたのかと思ったが、上方から滑ってくるスキーのエッジが切った凍った雪片が雪面を滝のように落ちてくる音であった。この辺から上は表面が数ミリメートルくらい氷化しているようだ。最後の力を振り絞って稜線を目指して登高を開始、12:40分に標高2800m位の稜線上に辿り着いた。そこが雪の付いている一番高いところで、登高はここまでとした。

稜線上からは360度の展望である。目前に朝日が迫り、右手には村営宿舎のすぐ上に白馬の頂上が聳え、左手には杓子・鐘が眼前に聳えている。アルペン的な雰囲気である。それにしても風が冷たく寒い。空は薄曇りであるがかなり遠くまで見渡せた。行動食を食べたのち、13:25分いよいよ待望の滑降を開始した。葱平の下部まで、今度は我々が氷化した雪面を割りながら、快適な斜面を一気に飛ばした。岩室辺りの雪渓からは雪質が適度なざらめに変わった。大雪渓の上端までの約32度の斜面を上から見ると身が引き締まる思いがする。アイスバーンだととても降りられないなと思いながら今日の雪質に感謝しつつその斜面に飛び込んだ。数回転して落石のあったところを通過したとき呼び止められヘリコプターの要請をしたがまだ来ないので猿倉に着いたら確認してくれとの要請を受けた。了解し、大雪渓を一気に下り、白馬尻から長走沢までスキーを飛ばした。大雪渓の中はジャリ道を滑っているようで最悪であった。猿倉に14:30分に着いたが、その時ヘリが飛んでいく音が聞こえた。(作野記)

猿倉 7:05 - 白馬尾 8:05 / 8:15

1900 m 9:15 / 9:30 - 2350 m 10:45

11:00 - 小屋下 11:50 / 12:00 - 緋線

12:40/13:25 — 白馬房 14:00 — 猿倉 14:30

